

〈はじめに〉 Q1、【白文でそれぞれAとBの意味のちがいわかりますか？】

A、我見人 B、人見我

Q2、【次の一文を現代語訳できますか？】

大王欲得璧、使人發書至趙王。（璧…宝玉）『史記』「完璧帰趙」

【復習】 ○二字熟語の構成

①似た意味の漢字を重ねる Ex)身体・離散…他には？ ()

②反対・対立な意味の漢字を重ねる Ex)起伏・着脱…他には？ ()

③主語・述語の関係になる Ex)国営・日没…他には？ ()

☆「国立」は「国が営む」、「日没」は「日が没す」と書き下す。

④下の字が上の字の補語・目的語 Ex)登山・読書…他には？ ()

☆ () (字目から読む。つまり熟語に () という返り点を付けられる。

⑤上の字が下の字を修飾する Ex)高所・深林…他には？ ()

☆上の字が下の字を詳しくしている。

⑥否定語と被否定語の漢字を重ねる Ex)非常・不能…他には？ ()

☆「非常」は「常に非ず」、「不能」は「能はず」と書き下す。

漢文でも理解したいのぼ。

③主語・述語の関係になる (国立タイプ)

④下の字が下の字の補語・目的語 (読書タイプ)

⑤上の字が下の字を修飾する (高所タイプ)

具体的には？

【参考】

S・V・C・O

主語・述語・補語・目的語

<p>③山高、水清。</p> <p>S V S V</p> <p>(白文)</p>	<p>(現代語訳)</p> <p>山は高く、 水は清らかだ。</p>	<p>(書き下し文)</p> <p>山高く、水清し。</p>
<p>④我登山。</p> <p>S V C</p>	<p>私は山に登る。</p>	<p>我山に登る。</p>
<p>⑤我得赤花。</p> <p>S V O</p>	<p>私は赤い花を 手に入れる。</p>	<p>我赤き花を得る。</p>

「」までを踏まえて…へはじめにの答え合わせを確認してみよう！

【Q1、】

A、我見人 ↓ 我見^ル人^ヲ 我人を視る（私が人を見る）

B、人見我 ↓ 人見^ル我^ヲ 人我を視る（人が私を見る）

Aは「我見」が③主述の関係になります。また「見人」が、④下の字が上の字の目的語になります。
Bは「人見」が③主述の関係になります。また「見我」が、④下の字が上の字の目的語になります。

むじぶじぶじぶ…語順によつて意味が変わるのでよー！

【Q2、】

大王欲得璧、使人発書至趙王。

まずは「大王欲得璧」のS、V、O、Cを確認してみましょう。

S₁ V₁ O₁

大王欲得璧、

V O

ここから、大王が「何か」を欲しているということが分かります。「何か」とは、「得璧」です。「得璧」は「璧を得ること」。つまり、「大王は璧を得ることを欲している」のです。

次に「使人発書至趙王」のS、V、O、Cを確認してみましょう。

V₂

O₂

使人発書 至趙王。

S₃ V₃ O₃ V₄ C₄

これはいきなり動詞「使」なので主語が必要です。もちろん「人（使者）にくさせる」のは「大王」です。したがって、「大王がくをさせた」ということが分かります。そして使者がしたこととは、「発書」と「至趙王」です。これを、大王が命じて行わせたのです。つまり、「大王が使者に、手紙を書いて趙王のもとに寄こさせた」のです。

つまり現代語訳は、「**大王は宝玉を手に入れたいと思い、使者に、手紙を書いて趙王のもとに寄こさせた**」とするのが妥当ではないでしょうか。

このことから、書き下し文は「**大王璧を得んと欲し、人をして書を発し趙王に至らしむ**。」となります。

【AをしてB（せ）しむ】（AにBさせる）